

みんなの図書館

発行日 令和7年3月26日(水) (年4回発行)

第76号



発行者 木更津市立図書館

木更津市文京2-6-51

TEL 0438-22-3190

FAX 0438-22-7509

《冬～春のイベント報告①》

木更津市立図書館開館95周年記念事業 令和6年度文芸講演会

「小説をどうやって生み出すか？」講師：桜庭一樹さん

木更津市立図書館開館95周年記念事業として、直木賞作家の桜庭一樹さんをお招きし、文芸講演会を開催しました。



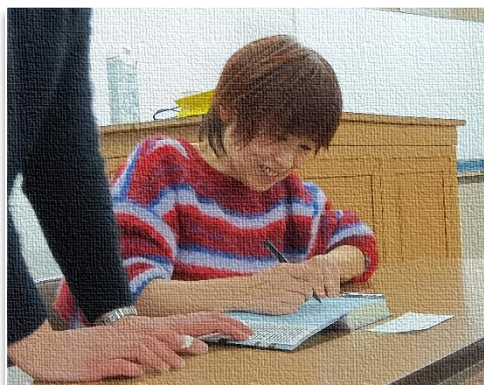
桜庭さんは2007年に『赤朽葉家の伝説』で日本推理作家協会賞を受賞し、2008年に『私の男』で直木賞を受賞されています。『赤朽葉家の伝説』では女性三代の生き様を綿密に描写しつつ、終盤にはそれまでの伏線を回収して推理小説に転じた展開が素晴らしく、また『私の男』では時代を遡る中で、主人公の身におこった事にただただ驚愕するばかりでした。その他、若い世代から支持を受ける『GOSICK』シリーズなども当館では人気の高い作品です。今回はそんな桜庭さんによる講演会の様子をお届けします。

最初にお話しされたのは、桜庭さんと図書館との関わりについてでした。若い頃に古典の本をたくさん図書館で借り読んだことで、確かな物語が桜庭さんの中に蓄積されていき、作家としての土台になったのだろうことが伺えました。

次に、物語の作り方について、話は展開していきます。物語をつくる際、自分を投影した主人公にすると書きやすいこと、自分と意見が異なる他者を置くとドラマが起き、話が進むこと、とりまく社会を入れると、その関わりの中で気づきがあること、物語の骨格となる起承転結を考える際には、転を2つ用意することなどが語られました。また、物語を生み出す上での古典的な概念である「ヒーローの旅」と対になる「ヒロインの旅」という概念に触れ、深みがある話の作り方について語られました。何人もの方が、公演中、桜庭さんの話を聞いて手元の紙に筆記具を走らせていた様子が印象的でした。

サイン会の際には、10代半ばと思われる参加者が、桜庭さんと嬉しそうに話をしていました。参加受付の年齢を広くとったこともあり、桜庭さんの幅広いファン層の方にご参加いただけたようでした。

様々な年代に対応した小説や、エッセイを書かれている桜庭さん。皆さんに合う本もきっとあると思いますので、是非図書館でお手に取ってみてください。



木更津市立図書館 開館95周年記念企画展

絵葉書でみる昔の房総 & ギルモアたぬきコレクション

木更津市立図書館開館95周年記念事業の一つとして、令和6年12月13日(金)～18日(水)にかけ、図書館2階大会議室にて「絵葉書でみる昔の房総」、2階ロビー展示スペースにて「ギルモアたぬきコレクション」の2つの展示を同時開催しました。

絵葉書でみる昔の房総

こちらの企画展では、当館が所蔵している絵葉書と、令和5年度に君津市在住の郷土史家坂井昭氏より寄贈いただいた絵葉書から、一部を展示しました。明治から昭和にかけての絵葉書で、県内各地の様子が見て取れます。今年度の「みんなの図書館」でも数点ご紹介しました。

入ってまずご覧いただいたのは木更津の絵葉書でした。海水浴や潮干狩、船や海中人力車などの海辺の様子のほか、神社や学校、町の風景などの写真も展示しました。



たぬきコレクションより、大狸の太郎が出迎えます



開催初日には、たくさんの保育園児が、丁度遊びに来てくれました。お散歩で見たことがあるかな？ 吾妻神社の昔の写真を見て、わっと声をあげていました。

木更津に続けて、内房地域→南房地域→外房地域→下総地域と、千葉県をぐるっと一周するように展示をお届けしました。展示しきれなかった資料は一部デジタル化し、展示室内でスライドショーとして流しました。時間をかけてじっくりご覧になる方も多くいらっしゃいました。

展示室内、読書コーナーに展示した本をご紹介します

- ・『木更津・君津・富津・袖ヶ浦の昭和』（いき出版,2018）
- ・『目で見る木更津・君津・富津・袖ヶ浦の100年』（郷土出版社,2001）
- ・『絵葉書にみる房総の今昔』（樋口誠太郎著,千葉県書籍教材,1981）
- ・『ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和』（国書刊行会）各地の写真集あり
- ・『木更津・袖ヶ浦の昭和史 写真集・君津郡の昭和史Ⅰ』（安藤操・地域文化研究学会編,千秋社,1991）
- ・『君津・富津の昭和史 写真集・君津郡の昭和史Ⅱ』（安藤操・地域文化研究学会編,千秋社,1991）



ギルモアたぬきコレクション

たぬきコレクションは、昭和の頃、アメリカ軍属の H.M.ギルモア氏に寄贈いただいたものです。彼は長瀬の土産物屋で、たぬきのはく製を見たことをきっかけとしてたぬきを知り、その後旅行先の土産を見たり、たぬきにまつわる話を聞いたりして興味を持ち、蒐集を始めました。



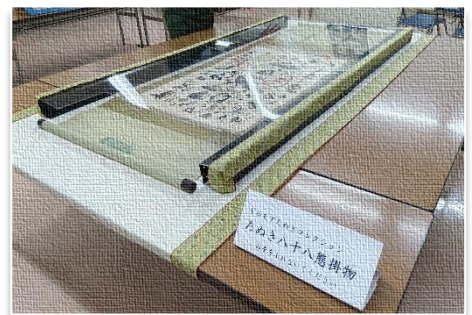
さまざまな姿の置物のほか、うちわ、色紙、湯飲み、徳利にお猪口、鉢、スタンプ、櫛など、バラエティに富んだコレクションの数々が並びました。



たくさんなたぬきたちに囲まれながら、嬉しそうに大狸を抱えるギルモアさんの当時の写真です。棚には今回展示したたぬきが、綺麗に並べられています。

木更津市においては、当時の浜名儀三市長、證誠寺の隆高鑑夫妻、鈴木正男図書館長らとたぬきを通じて親交がありました。転勤の際に破損等を心配したギルモア氏は、たぬきにゆかりの深い木更津市にコレクションを寄贈。また、本国に帰国後も鈴木図書館長と文通を続け、その縁でさらに、愛蔵のたぬき八十八態の掛物一軸を寄贈しています。

たぬき八十八態の掛物は、絵葉書の展示室内で展示しました。コレクションにも見られるユニークなたぬきたちが、所狭しと描かれています。長らく公開はしていなかったため、久々の御目見えでした。



5日間という短い期間ではありましたが、372名とたくさんの方にご来場いただきました。アンケートにも積極的にお答えいただき、ありがとうございました。

「木更津の昔を知る機会となった」「今後もこういった展示や催し物をしてほしい」「たぬきの掛け軸が、子どもと楽しく見られてよかった」「図書館にこういった資料があることを初めて知った」「素晴らしい財産、大切にしてほしい」など、たくさんの方の嬉しいお声を頂きました。また、「開催期間を長くしてほしい」「写真が小さく見づらかった」などのご意見もいただきました。資料を大切に保存するとともに、今後の展示等に活かしていきたいと思ひます。

絵葉書については、5pにて、電子図書ページでの閲覧についても紹介しています

開館95周年記念 ～木更津の絵葉書をご紹介④～



木更津海岸潮干狩

3月ということで、丁度潮干狩のシーズンが始まりましたね。木更津と聞いてイメージするもののひとつに「潮干狩」が挙がるのは、今も変わらずでしょうか。昭和35年頃から内湾の干潟が埋め立てられて姿を消す中、木更津市は自然干潟を有し、現在も複数の海岸で潮干狩を楽しむことができます。

蔵書点検を行いました



木更津市立図書館では、今年も2月19日～28日にかけて休館し、蔵書点検を行いました。長い期間をかけて、どんなことをしているのだろう？と気になる方もいらっしゃると思います。そこで今回は、図書館がやっている「蔵書点検」についてご紹介します。

蔵書点検って？

蔵書点検とは、図書館で所蔵している資料について、行方が分からなくなっているものがないか、正しい場所にあるか、破損や汚損しているものがないかどうか、またきちんと登録されているかどうか点検する業務です。

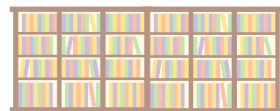
コンピュータ化される前は紙の目録カードと資料とを照らし合わせていましたが、現在当館では、資料のバーコードをスキャンし、それを所蔵データと突き合わせて、資料の確認を行っています。図書館によっては、資料の管理にICタグを導入しているところもあります。



右手に読み込む端末を持ち、左手で本を手に取り、ひたすら読み込んでいきます。当館でバーコードが左下角にあるのは、読み込みのしやすさを考えてだとか。

どんな作業をするの？

携帯式の端末を使って、資料に貼ってある図書館のバーコードを一冊ずつ読み込んでいきます。今年は一人当たり1日 7,000 冊を目標に数日間読み込み続けましたが、資料によっては重かったり、薄くて手に取りづらかったり、箱から取り出す必要があったりと様々。図書だけではなく、雑誌、地図なども対象です。書棚の高いところから低いところまで全て読み込みを行うので、腕も脚も鍛えられます。読み込み後は、得られたデータと所蔵情報とを照らし合わせて、無くなった資料や、異なる場所に置かれた資料がないか調べます。それら資料はリストとして打ち出されるので、そのリストを見ながら書棚を再度見直し。バーコードを読みとばした本や、書棚の後ろに隠れてしまった本、ほかの本の中に挟まれてしまった本などがないかを、複数人の目で丁寧に探します。



点検終了後は……

上記の点検作業を行っている間は、本の返却処理ができません。そのため、ブックポストに返却された本は点検終了後に、まとめて返却・排架を行います。その他、開館中には難しい、資料の大規模な移動や、点検で見つかった汚損・破損資料の修理など、開館に向けて準備を行います。

休館中、救命講習を行いました



開館中に行うのが難しいことのひとつに、職員全体の研修があります。今回は休館中の一部の時間を使って、市の消防職員を招き、救命講習会を行い、胸骨圧迫のやり方やAEDの使い方などを確認しました。新しい情報を取り入れながら、繰り返し学んでいくことが大事だと痛感しました。

木更津市立図書館では1階カウンターにAEDがあります。万一の場合に備え、ぜひ覚えておいていただければ幸いです。





おはなしの部屋の障子絵が変わりました



休館中の出来事がもう一つ。児童室の奥にある、おはなしの部屋の障子絵が新しくなりました。今回も木更津出身の作家である、北原きりんさんに描いていただきました。きりんさんは2010年から、毎年継続して障子絵を描いてくださっています。今年の作品は「あそべよすずめ うたえよすずめ」。童謡の「ちょうちょう」からのフレーズをテーマに、元気いっぱいのすずめたちと、それを見て喜び驚く子どもの姿が愛らしく描かれています。

駐車場側の窓から見るができます。お立ち寄りの際はぜひご覧ください！



▲電子図書はこちらから

図書館を使いこなそう NO.40

電子図書の独自資料

電子図書で、図書館が登録した独自の資料が見られることをご存じですか？木更津市立図書館では、今年度より、「みんなの図書館」と、所蔵する昔の風景絵葉書が見られるようになりました。これらは電子図書の登録が無くても見るができます。



電子図書のトップページ、ログイン情報入力場所の下にある「ジャンルで探す」の様々なジャンルの一番下に「独自資料」があります(スマートフォンの場合はページの下の方に「ジャンルで探す」があります)。

「独自資料」にカーソルを合わせる(スマートフォンの場合は左側の＋マークをタップする)と、右図のように「みんなの図書館」と絵葉書のリンクが出ますので、見たいものをクリックないしはタップして進んでください。見たい資料があったら、ほかの図書と同じように「読む」のアイコンを押すと、見るができます。



今までありがとうございました!郷土資料室 Yさんインタビュー



今まで長年にわたり図書館、特に郷土資料室で勤務をしてきたYさんが、3月末で退職することになりました。郷土資料室は特に利用者の皆さんとの対話も多い場所。たくさんの方との関わり、思い出があると思います。そこで今回は、今までのことを振り返り、質問に答えてもらいました。

図書館で仕事をする中で特に印象に残っている出来事は何ですか？

コロナ禍で特に、図書館は市民にとって必要なものなのかを考えさせられました。今までにも館の増設、書庫増設、電算化など色々ありましたが、全て一日一日の積み重ねだったなと思います。目の前の利用者さんに、図書館資料を通じて必要な情報を提供できた時の喜びがあるから続けられました。

郷土資料室の担当として、心がけていたことなどを教えてください。

歴史の現場(史跡・神社・仏閣)に直接足を運び、記録(写真)を撮ること。文化課や博物館などと連携を取り、協力し合うこと。



今までで一番難しかった/心に残っているレファレンスは何ですか？

明治初期、木更津裁判所が置かれた頃に太海(鴨川市)で起きた殺人事件(仇討ち)の真相を知りたいと尋ねて来られたレファレンス。県立文書館や裁判所も尋ねたがわからず、図書館を頼りに来られましたが、なかなか資料は見当たりませんでした。

思い出の1冊を教えてください。

「木更津市史」(誤りも含めて基本的に頼る資料)。郷土資料室の資料は、多くが昭和47年に出版されたこの本の為に収集したものが基本になっています。良くも悪くも郷土資料担当者にとっての聖書(バイブル)でしょうか。

最後に、今後の図書館に向けて、また、読者の皆さんに向けてのメッセージをお願いします。

5年後に開館が予定されている吾妻の新図書館はどのようなものになっているのでしょうか。施設は新しく便利になるのですが、図書館サービスの基本は「人」だと思います。AIのように「お答えできません」のひとことで済ませるのではなく、利用者さんの気持ちに寄り添って、求める資料を提供すること。日々の研鑽を怠らず、仲間同士協力しあい、サービスに努めていただくことを期待します。

利用者によって職員は育てられます。どんどん質問して鍛えてやってください。

Yさん、ありがとうございました！

編集後記

企画展の準備は忙しかったですが、たくさんの方にお越しいただけて幸いでした。来場記念にたぬきのスタンプを突発で作ったのですが、そちらもご好評いただけたようで嬉しかったです。実は、図書館の蔵書検索のページのアイコンも、とある時からたぬきになっていますので、探してみてください。(N)

今年度ももう終わりですね。来年度はもっともっとスピーディーに仕事をしたいと思います。頑張ります！(マル)